

馬誌

調習部

十一

和書門			
一七三九五	一三〇	四	六二
號	函	架	冊

武備兵法

內閣文庫			
七三九五	六二	二	五四
號	冊	架	函
和書			

內閣文庫			
番號	和	17395	
冊數	62 (12)		
函號	154	455	

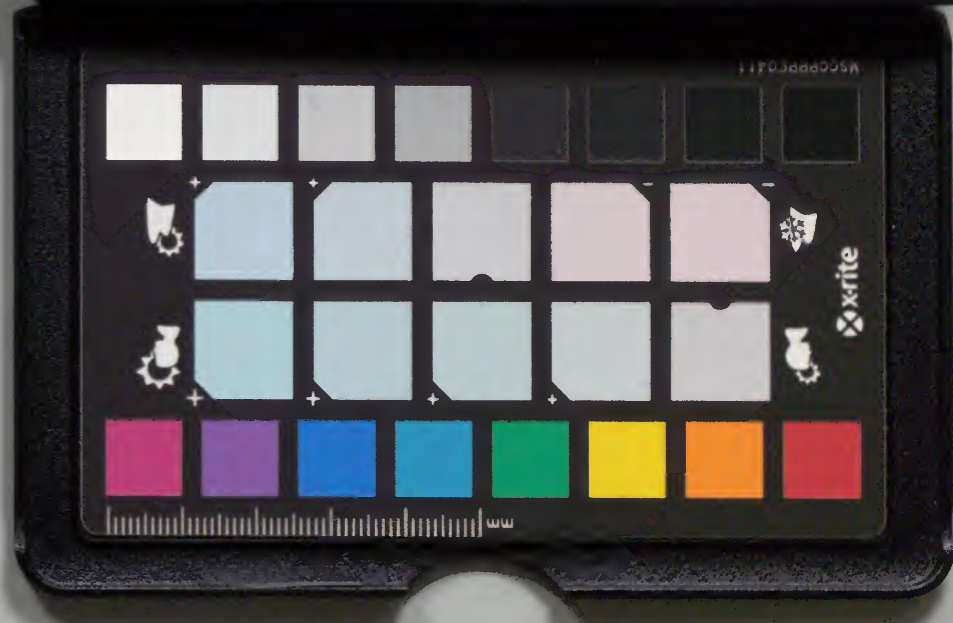


A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

Kodak Gray Scale



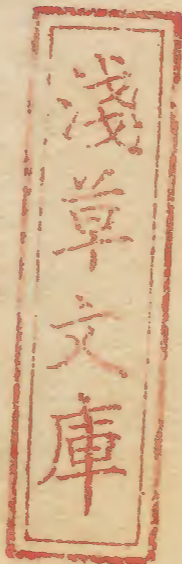
© Kodak, 2007 TM: Kodak





調習部

馬誌卷之十一目錄



馬誌卷之十一

調習部

馬誌卷之十一

調習部

一 約し馬すみの口より進む馬は引られしを一
 概に引付る故に強き馬は引付られしと思
 ふとき鞆あふし外を如何にも強く其後
 うちハハサのみ強く引をりて鞆を押し
 中すまき心得よハハ大く馬強る事なり
 且一口を早く廻りさせハハ輪あくらを小さ

くせりる何事も肉外にせしむる心持よし、いふ裏表
押し加減同意し、さき事なり。

一切のし、れは心得三つ、是阿多し、さし先り
て行馬。肩よりぬけい馬。後より抜る馬。何事も
心得あてふむ替り、すし、さし、肩先より抜る
馬も、切れる方の子綱を下げ切ぬ方の子綱
をの希張合せ引出せ、心よ、さし、か、やう、よ、乗、し、い、
只、省、き、て、何、り、な、り、引、出、せ、何、て、い、ち、り、回、
し、い、省、く、を、取、押、し、急、令、度、り、の、よ、い、と、馬

より、押、入、い、い、ん、と、急、搦、し、い、お、わ、り、よ、な、り、い、事、も
是、ある、留、まり、大、狩、の、馬、も、世、帯、の、急、搦、右、乃
通、り、よ、お、見、え、い、亦、肩、より、抜、る、馬、も、尻、より、抜、る
馬、も、何、色、も、同、し、く、り、れ、口、の、馬、と、心、得、く、
同、然、し、引、出、せ、何、れ、も、事、も、何、る、方、り、肩、より
抜、る、馬、は、口、弱、き、方、は、子、綱、を、引、立、強、き、方、は、
子、綱、を、志、申、み、の、髪、の、邊、へ、押、付、さ、方、の、居、本
の、爪、先、を、押、し、拍、子、を、交、て、拍、子、も、押、入、令、り
拍、子、さ、し、よ、い、い、ハ、さ、の、み、カ、も、い、ら、せ、る、中、一、間

馬よりよくと押入るるのなり此鞭練の
此氣味合次第よ忠は是阿之くい亦此より
換る馬をぬける方一し一を引連し海是
を馬場中一急廻る心内方なり右に此分ち忠付
是方くハ能ること是有り馬ふと一と一餘ら
此扱よ此系阿るくいかや平此儀ハ常は心付
之夫の和と此見一ハ大方阿する馬と中習業
馬は右の通りを急遠る故餘る馬は多く此
責馬出見物いと馬よ此意此阿てういを

系より亦上返る阿てういも是阿るうと此公付く
此腕のり馬を此系是なくとも此習古よたまる
此習次第よ乗方ハ心得よたまる一き事と此い
一 早馬よ乱毛口多し一此馬よ左右一口をふり鞭
を渡し馬場を物あたり是を切口もれ
る口持心よそハ是をたまる大く此心得ハ馬乃
知よハ早き是を持たう鞍銜よ構ひなく
此しくと此む事を治さるるなりされども
生得意の馬をたまる故よ左右方一少しりれ

鑣を渡しおとす生押へ抱を力より
乗を稼ごことと是あるなり申す此馬を
切るるうち歩口の中ふいけて押へ抱へい
早き足を出し事あるまじく靴味汁り
よそ左右方を押へ手前を軽く會釋い右
も左一も一足二足ふみ遠く九折のち極よ歩
みいをきりみ急度引出る極よ馬り
志おひ。甚だめ形より引車し乗を稼うせい
心持よきと是く申し左右方へ踏遠しを急

度押出しの留りい。是早馬の持前なり

一 痛み口やうの駒馬なりと乱れ口の極よ痛を
ふり鑣を渡す馬ハ靴を強く手綱を和
くふ急りく極るくふく歩の馬の尚いしを

秘古能練の事より名中残い

一 下驛の馬は右回極の口あり見い多ふ急
を急きい事を懐ひ左右方へ立休い口を
握たとしてまよかふ内よそりくと歩
み申す事ゆきのみ口合よい何して心の

業と見へ申し此の如く申すは此の如くは此の如く
たぐひ

一 左右のひのの鑣を渡す馬やとて右の
左の切りたる馬まゝの懸別口合右の左の
乗分け廻り馬幾通り是あり此類の馬
は何方とも口極らぬ左の右を押し申れはまゝ
右の極右を抱きまゝの切り方とてまゝ
ある宗交の如きものなり此馬の乗合は口
傳是ありとありは左右の方へ曲むをま

随ひて當るひの常も同一事計りまゝ
居りて馬直り納まる事程に右方へ去る
より口を片付けまゝ一方へ計り馬のこれ
掛りあるを極り入る事より此の如く
乃此を總りし節に申す申す此を先
行より形を押し申す後まゝ直りたぬ
とお見えぬ節の中のみをいへこの申せは
終り直り成るを自然に折れとて併極る
ざる口の馬大く右の如く申す申す

事よしの

一 口を切るに綱當世は年季のとおれ見の何色の
馬もひよりの口を切人はあり當流宗方よ
たぐ道具よ用ゆるに綱と光えしやをい
口を切付る心得は阿多事よひりしれ掛る
馬大しとまよるは但しり毛掛るとき切付る
悪し其あま馬の志わきし強き引とき口
切ひんとて手元を初めせいに隙よ結句切
りしれ事度と是阿多ありしれ口を

まの一押しよ多押し流られて馬場中一鬮先を
おむ多し時りしれ方口をひしと切く
勢多しく此心ハ重ねる悪き口心方と出を
おとの戀しめは為かり口向より二三次も
切付て苦しう多し又引口も流る背ま
ひしを出し片方一鬮先おむあり拍子遠
ひ方とて引と直して亂れ馬の口を
切返さる綱是ありよ多し會釋と覺し
し此難練ありし此心持し先をや

りい方よりびりと當る拍子をと交る背を方の子
綱を引しめいなり馬當らまをくくし先を返す
所を引しめい申しききし並より方より並よ
おれい足と揃ひし此切返し大く上帯
核よ切のけしよまし諸子綱を一度よ切付い
いあ申むつをつき先心是方き馬よ揃ふてい
此時ハ籠と拍子を揃ひしと切付路の中より
さる核よ引しめ鞍下をよりお結しハ多分
是のみ直りし事は何多かり此心ハ馬む

らを出ししとき口合よかろくを和らり
當り心よきときさき心を忘るてしき籠よ
喰付ぬ所をひしと切しし申しは驚き走り
出る句のち方なりとき又和らふ會釈ら心い
しは是れのみよる成との儀なり是子の好みと
くよき會釈と申しし何し其しと人前をと
して何ぞむつを出し先心を見物と思
き時當り先足方みをよく察しすはき事
揃ふくいんり又中足の肉も志くると馬

中とハ程と一拍子も諸多綱を切付らハよき
馬ト是ある方なり但し何れノ馬トモ切付切
る事ハ無クハ度々切付る馬ハ少
く元ノ動を付ハ赤口切らるると心得程馬
ハ心悪きものなり

一 鞍心といふを驛よき馬とて受け張る計
りハ何れも中氣ノ馬ト受張り立透
よき馬あり大早馬方ハ中氣方
浮立鞍筋多クハ下驛ノ馬ノ進
兼ハ浮

立ち花端ノ撮り進め申す鞍心是ありハ
此程殊光ハ鞍かく菊ハ浮立鞍
馬を進め申す鞍味也是ハ
手ハ此ハと此合意何れハ此鞍心ハ
人得ハなり程ハ是ハ此外此
事ハ此書ハ及リ又鞍當り乃心
ハ此ハ何れハ小袖綿風情ノ
鞍ノ上ハ打掛ハ此ハ此ハ
を打ハ此ハ此ハ此ハ此ハ

下り左右方へおきたる志をひてゆき申すふ
さあゝゝ鞆下志しゝ事阿るまゝしゝ鞆ハ鞆下
をつく馬におこつく其際をねらひ曲む業を出さ
と何ふものちりさ年々の馬も右の鞆かあるは
つく柏子よ結句鞆下系静め申あま曲む事
阿るまゝしゝ何方よりれたるゝ事阿る故
おこつけハ鞆下離る事ハ是あるなり前後左
右何れも鞆のゆり合ハ形のみくあまゝしゝ驛よ
まゝ馬襟脊しゝゝ事ハ和らゝ事阿るは持て

合點系多事よゝハ裸脊馬ハ何方よりまゝれ
あゝゝ多き事ハ是なきゆへおまゝしゝ馬の脊一
まゝしゝ事ハハ自つゝ右の鞆味ハ付ふハ初ま
すゝと存ハ鞆を馬ハ前後左右の居来よまゝり
鞆よ力を入る事とはる由ハ鞆下志たひしゝ馬り
答られハ妙心ハ口傳しゝゝハなり
一 鞆ハみ張るも阿る事鞆ハ足をみ込身のまゝを
おせたるは成ハハ強く踏しん時ハ我身ハま
のまゝりをゆる踏取とれ見えしハ是先ハ鞍を

入るに何れも其禮由り合はれども其傳由り委しく
あつよ申述すまひ

一 手総抱（力の取や心持よあつ是何る）くいまら抱
申るは馬を引付て糸口のるさそまこつり合の抱
味何れも心もち其糸各別替りしる事なり心得
是ちなき人の糸は抱（も押（も釣合も皆引張心持
よ糸中い引（抱あつも押申るも手総（引張ま
い）大くこの糸人此わちをい何れ細きまま
この押（抱引付張合の分ちを憶よ馬よ覚えさせ

申し事ハ力の入不持心もちやそまこつり合の抱
身の釣合よそまこのわちを馬よもも覚之
申るのよそま此位ハ筆紙よ申述難くは能く
此工夫是阿多くは此分ちを心得心是ちあつ
てハ違者よ此糸ハ中も益ちなき事申ののみ
多うる一

一 抱への事ハ磔（ハ行船よ重りを付く決り
ふね留りやうよ此心は是阿多（くい走る船を
無理よ引留れハ綱切りの船渡りちよ

阿やまぢ是あるべしといふとるく重りよ押へ
られ次第よよ船是弱り終ふ留るありし
重り軽きハ引立ち引く多し一ととき又重り
を強く付せ風も徳の命を惜み綱も舟も
危ふけなく終ふハ引留りあり馬も其れ
抱へ重り度りのあり馬進みよち引とき心
よ随ひ抱へ力力をまきなり何れ馬とて
同く口先の力弱し此方の抱く留り力を
か弱め馬よ志ふハ其馬乃驛おふ意し

余新しひのり一但し送物何れハ何れこの口
よても曲事何れハ其馬ハるふ力を取ら
まは極よハ思ふよ一滑口を押し込馬の出
くちしハお極よ重りて終るよ其外大抵の
馬も一早道有るよ馬ハ少し馬よ力を
負ふよその位よ抱へその内の阿やま透し
苗ハハ無り品よ艶出来そのより面白くお見
えい進め口。先の力と抱へ力と自然よ張合
ハハ力競ハよありて馬よ一官極よ見ゆる

なり但し右も人前を足危を多るべき時
さて諸の馬を面白き素より心得あり不
の手より合括しと極口の馬を各別なり又
馬より少し力を負てとす事細の引合
の儀なり鞍證の常の儀を結ぶべくい志か
いく乗すすとて鞍をて負るよりあまし
亦鞍を勝て負てとす事極括しなり
後一志より乗よいは是方く此位より極く
毎度此物極もしい上大く此証練と覚

えしは右より強し此証は別て下子のなり
兼い手後りよは間より此物語も此意用
よは大方の人よいまの極括し合點させ
すよよきとお見えてい事なり

一 馬を控へ當事ハ人毎よ力次第よ引はる極
よ心得り由一或は口の強き乗られ我力弱
きは馬強なるより馬を引當括し
引する力の強きは是方と覚之中は
其分ちい証て引馬を乗他より極括する

引すくうをん事しよひさき馬の上よ居居て
引きてても何方よ格り休むべき所も是れ
い但し亦一拍子よ引當る抱へて是れ何れと見え
いしよと始終ひき當るまは河く其河を道の
まあやをさくそ位方々い馬随ひ早さ
まいされまよや古師の傳よも柳よ鞠を
上よと中を走いりて

一
この口のいほ馬を何れ馬よ強くも出
ちいすよよまこと覺へ中い但し其馬の氣

一
さし位の位よより少一つ心りちも遠いあ
るべき事と存い

一
街の鑣の大小長短の分ち馬よ相應の儀は鉦
疎阿多とい面掛の仕掛けは口合により中すく
い法二つは人毎に存しよる事の格よ一とよ
乗方直しやる時ハさのみ損益の分ち考へ
ちくうりくと系中其事よい子移りの味
鉦練の上ハ遠く遠いしよる事よてい
一
さけめを擲むしよる後り常よは稽古先

よ存しさいさけめころひと六お傳のも程乃
事よい何巻の馬よい法心ほりそ骨を折い
公易くのころ老し十事よい殊よりしき
口明き馬方よい程以て法心ほり是方こそ味
も知もよい急も難くお見よいころひの心持
ハ拳の心をつけお打お寄し其拍子に更
押うけ馬にころしてせよ後りよいをい
後大方よきこと賞へし輕口の馬たよ
如何よい手の内うきやうはゆるしよい平の

内強きころひ中すかよいゆるし押ふる心持
よ集りすくい尤法心持よい悪きよ
何よい上よ手を悪し人方よいツ
ろもせよ手の内よき嘴先を反らせし
くい馬のかくひを折らせし事方よい取分
け右の手の内よき上よ其馬を喰さけ
やせし事よい少し手綱を引合せ下よい
これ衝よ重き撒る公持うと存し大よ
傳ある手移りある事

一 何れの馬よりそとて馬の位は應一 次第をよ
く乗け馬一 さいの早足をよまぬ馬は素
人々心は概る事々是方々和合の節あり此
時ハ思無邪の位ありてくひきて其上ハ一
早きよりみ強足を素りの事馬一 さいの
早足を出しゆく馬の好む抱一 引も亦一
くひよりきし引合をよけめの一 さいたるみ
けと申す一 てやりて馬の引合は喰留
んとて嚮の嚮を追心よそ少一 爾先を指

出ー亦一 是進めり一 さいの少くはとて抱一 抱
付く指一 さいの馬を衝の引合を追心よそ
身よ何る程の早足を出さたり此位七八分よ
帆を指よとの事一 さい風よ早く初度とて十分
帆を引心よありてハ初り初早く自然水をよそ
亦と岩すやききたとも初當り危く是何と
同初りてとらみ以後とて必其馬腹る事一
是ありて人問も候り強を走り扱れハ或は
蹴き轉ひたともするものあり右の考一 さい

凡そ見物あるは其氣をさうませ勢通する人
前通いし一足押して控るべくいさうむ馬足を
系ときは一際ゆるしてといふ中其とき一まは志
めくさうむ馬は是阿るべくい亦きし申すし
衝拍子よく乗るもさうむ足の乗位を知る
へくい何れも馬の好む抱くの引合を知悉い
心持自然しるべくい事し

一 ちうむ足を乗るときは鞆の浮立少し馬
ももくこれ引さうむい公りあしるる(さうむ

中氣の馬とて踏鞆をお詰進出は鞆味を
いさうむ足を系細くは中氣の馬は前方の
次方より乗掛は浮立一すいよ歩み
りいさうむをさうむせざる足よいハ大う浮立
鞆心何れも馬は控るへい但し口合により左
右の居木よりいれて意いお持も是阿るべくい
あり

一 馬の早足は系出すお持は右のさうむ足を
乗心持あり早足を系出す(きありさうむ

まろまろむ豆を五七尺つゝも糸掛け次第
は十間二十間も乗延中へ後へ乗掛はハ
後へ六馬場一丈いをまろむ豆をて通る
おま馬の躰へ早き豆をへお老を意出出
事あり

一 ちらの口會稽ひ襪袴の後ソへまろむ豆
油引何るまろむ豆ハ馬上の五丈襪袴の面白
き味ハむろの口も多くと是ありとお見えハ
一まろむ豆み掛け拍子の足を乱し掛る水ぎ

會稽ひ豆ハ糸ハ細豆も取りも踏豆
を後豆も糸替あり糸面白く鞠はおころつきは
ゆりの拍子に踏真一ハ其ありきまろむ豆
是ありと後へハ糸とむ豆も取りゆきハ豆
をまろむ豆用ゆきハ及しハ其ハけのを一き
ゆるハと志ある身りゆきハ此時も鞞心一入
大事ハつろくハ大方鞠味の心ハちハ丈稽
古の多きハおま息合拍子相違りつき馬
おころつきハ豆をゆきハ一破り掛けいと其

馬の口合より張合を交る馬あり一際ゆる
一馬のきおひをさる一阿やをさるはき
かまじするせ一際一めてゆり合せゆる一
上さして出馬かとい取分けを後り口傳と
る一交る一入ころひの手はりち鞭練是
阿やを交る此所をさあやを取損一乱是
はよりありいり又は方より追散一筋とき一乃
會釋とい破る是は阿やのぬ板よあやを
取とまり心傳ゆる一い是方よりさ一よき

板よと會釋らひい一板で拍子に踏直一中す
あり翔破るとして引當る板よ會釋らひい阿
けむをつきおこつと是を中一乱れ口見若
一く鞆玉をさるい是方みよよき板り
乗掛のしむいぬ阿木と延て見称一ゆる
一くい其上心得るを早く踏直一い無理
引張申一は引ると一と三拍子にありむを
つき見若一い上是翔飛の是ト大くは心傳
一と一い但一け飛うと是は馬ハ鞆心子

少し暫り是ありといふ拍子の馬乱れ是に
ある時拍子に踏直さば板より乗中其心
なりけり飛ぶは是ハ亂れ是よりあると云
つゝ事有く事通して稼きのいふ極よと
は鞆の強さといふ亦出口強く強引馬の急度
引留て急るあてふ心是ありとお見いされ
とも生馬の品暫りの中其心は又拍子に
踏直さば板合は傳へるといふ馬やぬる是を
會得る心是て拍子に踏直さると云ふ時其方

の身前より合悪くといふ長むるより是な
み遠く事有り其布鞆の居本後。禮乃立臥。
大事くさくい鞆よてゆり合せ手細い元乃
引合よりある板よとの心持するといふ中乘の
馬。むる只鞍以て鞆有り心の肝要といふ乱
れは會得るの一通りい殊よ其糸張りたぐ
いハ紙上より分難くい其上此處ハ此之夫
の越き其分承り届ぬ者荒増計りまはり
新のぬるは組一何とそ分別依り承ぬ

て愚存の事書付出目よりけ度いなり
一 花豆を高く取馬ハ地豆より中豆より後介
いとまき多分拍子遠なるものよま夫取子
口よ撮り道立馬の拍子覺え平山驛合を
きり多くなるとそ拍子遠い申に乗出荒
き馬是阿り此百ハよ合点いそ花豆
を押し後分花下よなる拍子と此乗後
一 くの拍子を押一後豆ありりよ乗拍子と
系ハハ道たちりやそ花豆前あり能ハあ

けい馬を踏下りも鞆下方りてむの口り
ハ阿りむむをつきやいむり尻輪よきり
撮りよまき系人の友りやそ拍子ありしぬ
いさ口先を引阿りて言豆をとり鞆下
着と系心思を覺へり此馬に乗出たを
一 拍子遅く系撮りとかく覺一い交を未
らそけ方より四豆の初合よそむ拍子と
乗撮多事只傳あり馬の豆たみハ諸拍子に
運いしよハ豆の扱ひ言下阿る故も鞆を

つき、乗味悪き者其の由を尋ねしむる事
事、乗方の秘事、よくよくいふ事

一 後足能くよくき、前のきりぬ馬は、
前後目短くよくいふ、前のきりぬ馬は、
の内必す、後足より、込立て、前押は、成おこ
つき、おこし、よくいふ、是れ、よくいふ、
は、驛能、中より、光え、中より、心、得、是、方、を、
ひ、よくいふ、おこし、よくいふ、
心、よくいふ、おこし、よくいふ、

む、つき、よくいふ、おこし、よくいふ、
言、下、何、る、おこし、よくいふ、
引、立て、後、を、乗、持、め、一、足、遅、く、約、合、ひ、
出、乗、持、る、よくいふ、おこし、よくいふ、
きて、歩、む、時、ハ、少、一、早、め、よくいふ、
も、よくいふ、おこし、よくいふ、

一 乗出し、不調法、よくいふ、
理、乗、出、し、事、悪、く、い、
を、誥、よくいふ、おこし、よくいふ、

乗出の事方り是木とけきまを柏子遠ひ
子乗出の故丹見物と見苦ト多又驛よき
馬と過立事有り此心あるべき所方り
一 首よこしり阿る馬。前光強き馬方り其こ
ちり花力よしき歩みすゆ過立馬と
乗遠の事是あり此分をよき乗得い
事肝要しき人く驛よき馬の口を入ると
こしり阿る馬を和けし事ハ心得各別よ
しとも子細よき強き掛りしハまる驛よ

きとて口の入や目控のやう是ありは
此所をよく分別阿る人ハ此の肉こしり
阿る馬も同一心ありはなり
一 素出ハ荒き馬ハ種古ハ其の習阿る事ハ
以穿鑿是阿るハくハなり
一 上悪。中好。下用。の事上悪とて子持多きを
悪き候ハよきといふとて少しも驛よき馬
其外むりしハ荒ゆる馬ハ先手を下げ
て乗ことハ極よ是ゆる人も是あり尤馬

強く立ち上りて其とき心方々す其子のあつた
い懸り亦下用といひて巻を四方子の邊へ
下けり押付く意は抱へ力拳先汗りて
抱へ納めの根本たるを後よと立たる位か
り手を下るとちりて臂。拳。懸身よ連れて
下りて強多といは法位は書形も及て其い
へとも拙者方此流たやと云お傳の為り
右の通り此物語い(う)しと形のぬきよ上驛
の馬進み立の時方といふ少し手の言きけり

子引合せはてハ會釋らひと徹り兼中い
有りい過立馬下ハ言事、會釋らひを截け面
白き位是ありい如何は覺へしや行截り
中其馬よ降りて下け會釋らひハ引
立形味も方り中ハ述細く大
此心得る人い何の悟法かぬくよい
子國軍中好い

一
強き、はひひくものまろく引折はよきと
如何う族も是何の極よおゆえといふ事

の心持よりハ是れ為キトモ見えずハ其故也
心進むよりハ先強く掛る馬もあり心ハ其の
み約ぬともハ先強く後付する馬もあり此ハ
退き口を引とき引に違ふハ結局一足つが
出足ハあるとも退きらぬ馬見阿りのハ其馬
ハ出口をおどし或ハ豫地。存。土手。方と云ふ
け幾度も急退き退きらぬハて見れば退き
らぬときハ少一口をたり引出さく強き引
亦一口をたそけり色と云乗掛る少一口退き

心あるハ如何にも和らぐハ會釋らハ夫よりハ
よれと云ふ心の極ハ會釋らハハ次第ハ心
と柔くく方り口引馬ハ何れも此心得る柔
く事早きとお見えずハ馬の心合を考へなく
口強き馬と云むと引散りハハ却てこもり
よなる事多しハ心の強くハ馬ハ口ハ身ま引
裂とも馬ハ得心させぬ乗人の乗人ハハ口と
心の連まき直り納事ハ阿り難きとお見えず
馬ハソやお方の知りのハハ悪口をた

い時ハ人ハ異見をいふ極ニ多ク判別留人
亦ヨリ時不時に夫ニそむと以て一禮を
出さる心の極ニ馬ノ會釋らひて急い自
つゝ馬ノ心ヨリ方なり申出へん大ノ馬
口合を急心得ハ此心持多ク強ク引ると
口ノ皮初々成りて方々とお見え木ハ
口と心と連れ初々極々と急極事
くは但一赤強ク引てよき馬ハ一通りハ是
阿るとお見えんきねハ幸と秀人との福書

目も心と口をのる馬あると方なりいふたえ
其志一うけらるくハ二を教家より外の
事そたきと歌の書よとお見えん祝言つ
ぬ申へり系心とつぬぬと
たよきぬたりあきふ何とそなるさ
よしけり益々うと木なりけり
器用ハ器用より教家ハ上よりとりと
阿り是ましく急得ある人きなり
一花條より馬の心ハ風人の心も水と書出

中事ハ馬不進。自乗人進。亦進むを押し
い事これある時は無風波立。有風水不動。
やうよまハお遠と存ハ大ウハ風立ハ波
もハち風静ハ毛ハ浪も止るま心もち
よその旨風波の立不前後の儀ハいとも
其分ち此辨別あましくい 以上假船集

一 後輪あとの徳を第一ハト馬よよき事又収
馬よよき事又上口の三拍子強出ハよき
事又下口の馬よよき事又足入を意

よよき事又上り扱よよき事又想まく
りの子綱を強く急よき事。○後輪の
徳をけ分々と存ハ

前件の分徳ある次第取り度存ハ

一 いらト馬よ後輪を用ゆる事ハ進もたなくハ
但一鞍ハた二口合第一と存ハ何木と鞍を
當りいと口控りハキハさるものと存ハ
一 ち収る是も後鞍を用ゆる事ハハ加ウの
るもいらトの基よて釣当りハ所をせり

いれり言と自然と存しは鞍あとりよきと
ても禮を弱く踏いて鞍汁りよ知りて糸
いれし収しとき鞆玉に注れり首言を守
るものあり

一 上口の言三拍子うけ出し後輪よきと中
すい上口の言前輪よき当人為し鞆を替りて
馳出し中の後口を替りし持し宗前まは輪の
突撃事記し言心持自然よき

一 下口の馬三拍子にせし^あと後を用ゆる事
右の心持自然よき

一 足入りて後輪よきと中^あと後を^あ用ゆる事
後足はきふやきすのよき^あ後足よ重み
掛りいり後足を深き踏込中まきす
よそし^あと後足は前足より軽くい^あ引^あ
事易き^あのよき^あと存しは前^あ掛り^あ
前足は深くふみ込し^あ後足は^あ引
兼^あ前^あ重^あし^あ思^あす^あの早く知^ある

事、以、度、の、は、足、入、り、て、い、口、程、を、高、く、足、入、ら、る、
り、の、方、り、は、重、き、下、口、の、馬、の、分、け、深、く、足、入、
り、の、よ、り、口、程、を、高、く、程、を、思、ふ、い、ん
と、存、し、後、福、よ、き、と、一、事、一、く、い

一 上、坂、を、後、鞍、よ、き、と、一、す、い、後、足、は、踏、付、
て、あ、る、前、に、折、込、く、あ、る、い、い、ぬ、何、も、前、
足、を、さ、ら、と、中、い、も、踏、付、く、強、み、と、折、込、
く、強、み、と、踏、付、く、強、み、い、ぬ、後、の
鞍、よ、く、い

一 惣、ま、く、り、の、子、綱、を、大、形、に、乗、い、中、の、鞍、を、
て、ま、く、い、と、強、み、を、高、い、時、の、後、の、鞍、を、
是、た、く、い、て、い、子、綱、強、く、い、た、き、と、存、い、但、
引、と、ま、く、り、と、ま、く、と、存、い、か、や、し、は、鞍、を、か、
い、く、系、時、の、身、形、悪、く、思、え、す、い、口、程、を、場、末、
て、の、心、持、と、く、と、存、い、○右、の、條、に、不、審、
た、れ、い、以上、師、弟、問、答

一 鞍、の、上、十、五、の、曲、と、い、ふ、は、あ、る、馬、の、前、を、
志、き、踏、馬、の、後、を、志、き、反、る、馬、の、前、を、

志き返去ぬ馬は後を志き頭を下る馬に
一 後を志き具足を着て、中を志き山を上る
よふ前を志き山より下るよふ後を志き嶼に
こちより乗り換へぬ、葛籠の心よりの海
川を渡古時、後輪を越て三頭よ乗り物物を
志きよ、鞆の上よて身を静くよ、志き鞆
よを取馬よ、鞆よ、取られて後、綱を志
出た、一、志き馬を志き、警甲の髪を巻よ
て強く突なり、志き又、後よ八つの品と、よ

一 折節おれぬ方の證を添て折方の證を開
くなり、具足を着て、證を前後、遠く
よみる、物よ、志き、證を馬よ、志き、
志き、志き、志き、志き、志き、志き、
よのあり、水鳥、志き、證を後、證あり、川を
渡す時、證を志き、志き、腰帯よ、結付るなり
結ひ、仕ぬ、志き、水表の證を開きて、志き、
志き、志き、危なり、志き、方の證を強く踏て、危な
き、方、の、目、小、鞭、を、見、せ、く、乗、一、馬、よ、引、れ、く

留らざる馬の臂を蹴る留るなり鞅の上
十五の曲澄は八の品右の通なりいつれの馬を
乗るも十五の曲八つの品は難き事なりなり
安都馬具佐

勝れざる強き馬は地道を何と云乗ある

つくは

一 勝れざる強き馬は先鞅の重なり常よりハ
かへり花く菊を腹帯の志めかけん所要た
るくは存し又ハ口は依り街の大小押掛乃

詰りたる人何より大車たるくと存は乗
口赤るき言ふ大衝すくは何色の馬も衝
の詰りたるよりくも存しは押掛の詰りも口
強き馬よを常のめくあるくと存しは
志するき口は詰りたるよりくは但し衝の志
め加減は右の口合も馬の心よりして遠は
細のよ心を覚は馬は右なりは仕惣よきりと存
しは右のめく掛りてきて乗掛へき次第は先
鞅並りして鞅を綱をよく堅め馬は二三

間引出させしめていづるも馬場を踏む短く
走り地道の拍子、如何ほど遅くともか
構ひて馬の氣をおさぬ拍子會紙らひ中
止へん其由まきい、強立地道を強破り
終條りて抱へし時、さる事あるものま
其時、ま川廻したる、さる、廻す内、ま
極悪く、い、猶、さる、ま、立、し、て、抱、へ、込、事、
あり、難、き、事、あり、其、時、い、何、も、ま、さ、
強、く、い、以、鞆、構、へ、の、心、持、手、綱、も、力、入、せ、い、
く

位、計、り、ま、た、勢、め、中、の、位、を、出、る、り、あ、り、さ、
初、は、強、く、立、い、り、何、も、強、く、抱、へ、其、後、を
弱、く、緩、め、い、を、ま、き、く、と、思、ふ、ま、た、ハ、輪、計、り
を、乘、い、さ、て、弛、め、い、を、馬、合、点、し、る、時、ハ、
次第、ハ、輪、を、大、き、く、系、い、大、き、く、意、内、り、
如何、も、ハ、綱、を、初、め、り、抱、へ、力、入、さ、る、拍、子
乘、り、肝、要、ハ、ハ、鞆、此、内、ハ、地道、の、拍、子、初、ら、た
成、た、ハ、少、く、長、く、お、返、し、無、中、す、へ、い、ま、
其、後、だ、く、ハ、後、り、中、止、へ、い、又、鞆、是、て、強、き、

るは鞍を前へ寄せて座平の後へのけこむる
鞆はまる鞆きつゝのさふりのよてい其上後へのま
たる鞆は志くと後着りさるる故に乗馬
のよてい第一おく鞆たる鞆は馬強立りの
よてい常々乗馬は座する時強まるは前輪
ゆるゆる鞆肝要と昔より中玉ゆすり取
りさるるの時鞆をさるゝ寄るゝ乗馬は
きくと覚ええりい。不審晴中い。

強馬は腹帯つまりたるは座し後へ志

るはよきとふいり

一 強馬は腹帯詰りたるは思きくと早く志り物
強まる乗馬は得るおしり骨を張り何れ
腹は力をおかたりのよてい其力出りたる馬
腹帯を全めし腹帯のしまりしるを力と
して猶腹の力出りよきとの存り腹帯
を緩るとしり腹を張出すとき力なく
ゆるまる腹より力を留めり是一つの徳ら
と存り人馬は帯を締めて腹を張ると又緩

くして腹を張くと競へし詰る方とありし
物と強るハ鞆をいれ力出りし何れの高も
鞆をいれしはさるせの時より一まゝいれしとく
見えしものよてい

街大小の沙汰は口をゆるぎ馬は大街
のしみの短きを利ゆと如何

一 口をゆるぎ馬は大街のしみの短きを利ゆ
けり綱力ありし地道の物子悪手とのちり

生重口を軽くなりし口を痛ませ押
さけし人とさる変を少し志ありてを
生後頭をあけし口を痛ませしは
何とく口軽くなりしや右よりすぬく
口を痛ませるとさる街のちいさくては
何とく痛くなりしや大街のしみの短き
角をみにては少し当りしは大きなるゆは
口眼は強く當りず痛みし抱へし時も
大街より抱へをよききくると覺えし

以ハ五六度ほど乗せしめて後ハ六面楯を括
きるとして口割れハ古かた存し又強
馬より括しきりよむい夫の心よりりハ
心よりしきりも乗込ハ馬たし心覚え
の上よりりて乗込ハ後之事ハたきり
存し

早馬ハ口を割く急ぐる早くハ哉
後ハ乗たきり早くハ哉

一 早馬ハ割て急ぐる底足を行と覺て

中ハ但一常ハ急ぐる急付くる急たハ六當
疾ハ口を括して早き事ハ何人ハ夫と
ても後ハ割しきりよむい

早馬を割く早きとハいり又急くる急
付くる急を急付ハ口を括したるハ

早キハ如何

一 早馬を割て早きとハハ急て早馬ハ腕を
反らし口をのこし綱ハ張楯ハもの
ハ夫を急ぐる急付ハ腕を急ぐる急付

綱子張掛り力たつきあよ遅くいそよ遅り
よく掛りい新よこそそ色その心持あるものそ
い又思く系て置たるを為思座い口を落
して早きこと中中い常よ思く系付て垂
たる馬ハ口を割りて系れい思き口の残り
たる口よささい思のより為座い思きこと
よてい夫も落しそ思付とるれい思き口も
少一の事よていハ一度よて垂り後よい
割りて系たる一まい早く思と思えりい

○不審時中い

一 乱れ是の馬を何と云ふ何と云ふ哉
責いそも是出せざるのありや今の生付よい
内もたも馬もあり又驛強きもあり驛強
くい内もたも馬より増しよていかやう乃
馬を鞆掛く我身ありを嗜みて思事肝
要よてい思やうとそも思事あるまあり
と存い早き思い思付より思際よ系と中

るはなり程くは第一馬を所を並一足並
ををりし乗へとい馬田もたすし馬場を
永く乗人前をさひく通るさる極よ高き
よふい人前をさひく通りしは手際分らず
高き事よてし知よ身なり思く見えぬと
高き度下もよも見えしりよのよふ○不實時
し

片取れ足の馬は何と云ふ事あり

い哉

一 かく取れ足の馬は飛て足は有ぬは口よ
思き所あまは行するものあり鞍は下地の
鞆より少し立透りやすし打く馬田
場行しはさひくせりまひく口を軽く持せ
く乗たすこのよきと解い以外を少し
つゝの鞍は思し心持いしとも少しあやま
りる乗くしり程くい○不實時中し

早馬の銜中なるうよくいし人哉少き
方よくいし人哉

一 早馬の驛甚強方々の中衛より中驛の
る方々の小衛よりと覺えし〇不實
鳴りし

口の馬きるを直し以時に刻て直し
後登りしや子と以て威し
直しし後登りしや子と以て威し

一 口の馬きるを直し以時に刻てと又威し
て後登りしや子と以て威し
直しし後登りしや子と以て威し

は刻て早馬を直し以時に刻て
後登りしや子と以て威し
直しし後登りしや子と以て威し

切馬の何と云ふ是ありし哉

一 切馬の何と云ふ是ありし哉
外の鞍橋も多し大車のはりし
持の分りし名も近し

強の鞍以外の特色との口傳とも何と

は乘し哉

一 旅の鞆以外の心持もと旅出しは餘多の只傳
は元い多分驛強きるたとい旅出んと思へ
ハ乗車の方より急ぐれねとも馬の方より勇み
出ぬ何れも強く旅出たるものなりさや
の言を馬場近く廻しして旅出の事悪く
何としても近く下より廻しハ猶強く出ぬ
ものと存しハや中一の言ハ善くより二素掛
馬場の語りをよくして次第々々旅出し
中より又善くより素立ても旅出しハにハ

強く出ぬ事あましくは能く強く出ぬとも又五
間三万の事たるべきと存しハさそ其後
抱しつても何物も知らるる見物の赤
を二十間二十四五間前よりいづも馬を痛
ませしで強くうけ鞭澄しを拍子をよくせ
り立して強通し末口の程合を馬場の見合
たるべき氣持と存しハ旅出馬をせしハ亦
も勇ませる時分はあつりよきハ才ひし
せりしを俄よきしをまめて急ぎせりし

事ハ思くは強出―をいつても和らぐよ出―の
ハソもともたも早くして傍の水際の方
やうに強し事―よまきと存―の馬をせりい時
鞍鐙の拍子肝腰と存―の右の強出―又ハ
馬を扱―り持ハ強出―いより急きま―の見物の
前までハ必十遅くたも―のたより驛強き馬
たすとい居―りまていたるむ事―もなき馬も―
とも馬―け出―いより閑くせりいハ馬のまゝ
い思くは怖みたる心持―とも早き時を因然

よそいとも馬のまゝハ強く見えい―際早
きやうよ見え―すものとな存―ハ又強出―い
り馬場を詰め早く廻―いて強出―い事
もありさやうよ折廻―りて強出―いとなす
れハ驛強き馬ハ廻―い内よ氣出―い初よ
強出―いを知りよ出―いハ事―成―りもの
存ハ強出―い人と思ふ心―い方より早く覚え
いものと存―い右の方―い早く強出―いハ
よそい切ハ馬ハ其外の事―夫この仕掛あらん

と存しい○右の石室の陰中い

遠路より馬草臥さる心持はいり

一 遠路より馬草臥さる乗中いふまゝ尻を
の心持を扱ひ申肝要とて行く道を行
りよふ事申すい鬼心持多きい聲あつて
の人よ後れいともよま馬をいといふと
いふ最初い事なをくれいとも遂に人な
ふ事い事いなりいりのあり又鞍の上
重み扱ひい事思くい片重みいり

いハ何ともいも馬力を出しハ故に事申す
りのいそい事一帯を心い扱ふ事い肝要
あり右道ありともいなる石をい
片なりたるいハ爪早き減り申す又道り
いそい事い候い暑き時い候もい
い候いいハい事い外いなるい候いすくむい
いそいよま加減なる湯いさいい下を
洗ひて申の布よりいをい揉むこのよ
いそい外なるい氣持意申すありいと

存心 ○ 不實 諸心

曲馬強馬志たひ心より心或りの内
兼てけい心持いり

一 曲馬強馬の志たひ心より心或りの内
事ハ珍稀なる馬の志ハ生休けんたる
心の志をい志たひ心より心或りの内
此心持と大曲を志たひ心より心或りの内
の事ハ志たひ心より心或りの内
志りたる事たくと存心

曲馬を諸心たくと志り切る事たくと
いとの事ハ志たひ心より心或りの内
い志りすしと志たひ心より心或りの内
い哉兎角もろ心たくと志りす
いと初より諸心を志たひ心より心或りの内
ハ志たひ心より心或りの内
一 志たひ心より心或りの内
いん事ハ志たひ心より心或りの内
尚君ハ志たひ心より心或りの内

馬の利を得て逆さひりて在るべきより尚ほ
はよく利を得るを祈りて其利を得てせしめ
たりて馬懲る事なきより車り軽し
引後諸心すしむ○右の不安暗し

一 強馬を志す心馬の生存より弱すは強く
以て志す心肝要と祈りて諸心すしむ
系しは力合さる故も系しすは志す心
すしむ馬利を得く引内小くそ色々の仕
掛あるはくと祈りて又曲馬たると遠ひいと

存し曲馬の後よ諸心を系しと強馬を
後すも諸心を系しとい愚し後すも何
も知る不仕け其和りたりたり強み
を交て色々の系ありと祈りて後
とすも諸心よ系しと逆さひりて大方うけ
引とすも系しと祈りて愚しと祈りて
く引の氣を出す事ありは心を初め
軽しと易しと祈りて心得るは又強
諸心のよく強く引ても氣色たりと

をたゞまき馬の上皮斗りて強みを出し
底心いさむわとよとそくしき強き斗り強
き馬よ初めより諸心肝要と存し○不
慮されし

手綱を膝下馬を引

一 手綱をあまむ心持は是も志あり心と目然
りて強く引強みくくと斗り意し其強
みを力として其ま強出し其強みを
馬の歩の時膝下より力たきし自然

とるの心も和らぎ成りあきし膝下も
あり馬の口上心より其氣轉次第し
殊に強き馬たし膝下心持ふて系れた
るりのし○不慮晴し以上師問答

BOOK 1

